

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	中期ビザンツ文化圏における内接十字型教会堂の架構形式からみた建築構成の特質と系譜
Title(English)	
著者(和文)	樋口 諒
Author(English)	Ryo Higuchi
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10846号, 授与年月日:2018年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:那須 聖,奥山 信一,中村 芳樹,元結 正次郎,藤田 康仁
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10846号, Conferred date:2018/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間環境システム	専攻	申請学位(専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(博士)
学生氏名： Student's Name	樋口 諒		指導教員(主)： Academic Supervisor(main)	那須 聖 准教授	
			指導教員(副)： Academic Supervisor(sub)		

要旨(和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論は「中期ビザンツ文化圏における内接十字型教会堂の架構形式からみた建築構成の特質と系譜」と題し、以下の7章から構成されている。

第1章「序論」では、研究の背景として、7世紀以前の初期と8世紀から12世紀の中期との間にみられる建築活動の停滞によってビザンツ建築史には断絶が存在し、従って中期以降ビザンツ文化圏の教会堂として最も一般的な内接十字型教会堂と先行する教会堂との関係性が不明瞭であることを述べ、さらに内接十字型教会堂に関する既往研究がその立体的な特徴を等閑に付して平面的な分析に終始し、かつ中期ビザンツ建築として包括的かつ体系的な分析を行ってこなかったことを批判的に捉えた上で、従来見過ごされてきた立体的な特質としての架構の概念を提示し、かつ総体として中期ビザンツ建築の代表的な建築形式である内接十字型を体系的に理解するための適切な時間的および地理的な枠組みの中で架構的観点から検討することによって、本研究がその特質と系譜を明らかにするものであると述べている。

第2章「中期ビザンツ建築研究の概要」では、既往のビザンツ建築研究と内接十字型研究を概観し、内接十字型がこれまでの研究者の中である程度の合意は取られてきたものの、横断的な定義が存在しないことを指摘し、その上でこれまで内接十字型として捉えられてきた教会堂を可能な限り多く含み得るものとして、本研究における内接十字型の定義を規定している。

第3章「分析対象遺構の選定と内部構成の概観」では、第2章で設定した内接十字型の定義に基づいて分析の対象となる教会堂を抽出し、それら157棟から年代考証を通して中期の教会堂と判断された145棟の教会堂のうち現地調査および各種既往研究によって十分な情報を得られた92棟を分析対象遺構とし、それぞれの詳細を架構的な特質に着目して記述することで、次章以降で詳細に分析を行う高さ方向の特徴が異なる二つの内接十字型の構成、すなわち地面から垂直に立ち上がる壁面を中心とした下部壁面とその上に載る天井面を構成する上部天井面を規定し、架構構成の特質を検討する項目とその妥当性を明示している。

第4章「下部壁面における架構構成の特質」では、下部壁面の架構構成について、上部アーチの配列形式、平面形式、隅部柱の架構形式、および隅部柱と上部アーチの接合形式の4つの架構形式の組み合わせから22の型を見出し、それぞれの比較対照によってその特徴を明らかにするとともに、内接十字型の下部壁面の架構構成は大きく壁の構成として捉え得る場合と柱の構成として捉え得る場合とに分けられることを明らかにしている。

第5章「上部天井面における架構構成の特質」では、上部天井面の架構構成について、天井面の個数、各コーナーベイにおける横断アーチの個数および上部アーチの配列形式の4つの架構形式の組み合わせから12の型を見出した上で、それぞれの比較対照によってその特徴を見出し、内接十字型の上部天井面では、コーナーベイの天井面無しに隣接する天井面を構築不可能な場合と、コーナーベイの天井面と隣接する天井面とを独立して構築可能な場合の二つに分けられることを指摘した上で、前者の場合には上部アーチの高さ関係とコーナーベイの天井面架構が完全に対応しているのに対し、後者の場合には10世紀までは上部アーチの高さ関係とコーナーベイの天井面架構にある程度の相関関係はみられるものの、11世紀以降次第にこの相関関係が低下していくことを明らかにしている。

第6章「中期ビザンツ文化圏における内接十字型教会堂の特質と系譜」では、前章までの検討を総合して、内接十字型教会堂の建築構成について類型化を行い、架構形式の相違に基づいて建築構成の展開を考察した結果、二つの異なる系統を見出し、それぞれの系統における建築構成の類型は時代と共に拡散していくのに対し、その建築構成の時代による変化が対照的であるために、既往研究のように平面的にこれらの教会堂を捉える場合は一つの建築形式として捉えられる可能性があることを指摘した上で、それぞれの系統について、その地域性を踏まえた上で先行する建築群との建築構成の比較対照を行うことによって、内接十字型の系譜について明らかにしている。

第7章「結論」では、以上を総括して、本論の結論を述べている。

以上を要するに、本論文は、中期以降のビザンツ建築における最も一般的な建築形式である内接十字型について、これまで看過されてきた立体的な構築物としての特質を捉えてつつ体系的かつ包括的に検討したものである。その結果、平面的な特徴を中心として議論していた既往研究では捉え得なかった教会堂の特質から、これまで内接十字型として一括りにされてきた教会堂群が異なる系統の建築群として捉えられることを示すとともに、立体的な特質を通じて見出される中期ビザンツの内接十字型教会堂の史的展開、地域性、および先行建築群との関係性を統合することによって、その系譜を明らかにしている。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻 : Department of	人間環境システム	専攻	申請学位 (専攻分野) : Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(工学)
学生氏名 : Student's Name	樋口 諒		指導教員 (主) : Academic Supervisor(main)	那須 聖 准教授	
			指導教員 (副) : Academic Supervisor(sub)		

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This dissertation consists of following seven chapters:

The first chapter describes the difficulties in understanding the genealogy of Byzantine architecture because of a gap between early (-7th C.) and middle (9th – 12th C.) period and reviews previous studies which ambiguously relate the cross-in-square, one of the most popular church type in middle-Byzantine architecture, to early-Byzantine architecture as most studies focused on the planning of the buildings or certain areas and overlooked the three-dimensional characteristics. Accordingly, the chapter sets a chronological and geographical range and indicates the aim of the dissertation, which clarify the characteristics and the genealogy of the cross-in-square churches during middle-Byzantine in terms of the frameworks, or three-dimensional figures and construction methods.

The second chapter specifies the general definitions of the cross-in-square in previous related studies and proceeds to a working definition for the dissertation.

The third chapter focuses on 92 churches (out of 157) with sufficient information for the aim of the dissertation as core cases, that are corresponding with my definition of the cross-in-square. Through a description of each church, the chapter also designates the two parts of the church: the wall-part and the ceiling-part.

The fourth chapter analyses the wall-part and supposes the part of the cases are regarded as walls or supports.

The fifth chapter analyses the ceiling-part and indicates two patterns of construction: ceilings on bays next to corner of the churches can/cannot be built without the ceilings on the corner bays.

The sixth chapter unifies the fourth and fifth chapters. It makes 29 types of the targets and analyses the development of the cross-in-square based on the similarities, differences, and localities of the types. As a result, two lineages emerged, and the chapter illustrates the genealogy of the cross-in-square supposing early-Byzantine time's predecessors of both lineages.

The seventh chapter represents a conclusion of the dissertation.

In short, this dissertation shows entire genealogy of the so-called cross-in-square consists of several different lineages from the view of its three-dimensional characteristics. The study represents systematic analysis of as many cross-in-square churches as possible.

備考 : 論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意 : 論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).